

「小川内」便り 第27号 平成26年1月

特定非営利活動法人 小川内Oプロジェクト（理事長 渡辺眞作）



連絡所 〒731-1171 広島市安佐北区安佐町小川内4579-3
安佐小川内集会所内

TEL&FAX 082-835-0831

ホームページURL <http://ogauchi.web.fc2.com/>

目次

源快集楽・小川内へ	P1～2
吟醸酒「白島ろまん」販売中	P2
農村体験ツーリズム「炭焼き体験と交流会」、「滝山登山と交流会」のご案内	P3～4
小川内のとんど	P4
編集後記	P4

新年おめでとうございます。

平成26年（2014年）になりました。お元気ですか。

昨年も会員や住民の皆さまのご協力で予定通りの事業を無事終えました。本年も引き続きご支援賜りますよう、よろしくお願い致します。

今年の十二支の「午」動物では「馬」ですね。年賀状に「駿馬」の如くとか、世界中みんな仲良く「うま」が合う幸せな1年になりますように！ 新たな日本、地域、家庭、自分を目指して「馬力」アップで「うま」く行く年になりますように！等、「馬」「うま」の文字がありました。「人間万事塞翁が馬」。人生は、いいことばかりでもなく、悪いことばかりでもない。何が起るか、一寸先は闇、と言われますが、いい時も油断せず、悪い時も希望を失わず、必ず「うま」く、いくと信じ精進しましょう。

源快集楽・小川内へ

中国地方の過疎地域の一部で、人口減少を跳ね返す兆しが表れ始めた、と元旦の中国新聞は一面のトップ記事で過疎地に希望の持てる報道しました。中国地方の自治体の全域が過疎地域に指定されている4町（島根県飯南町や山口県周防大島町等）で転入が転出を上回る「社会増」になっているとのこと。因みに広島市はその指定に入っていない。

「地に足の着いた暮らし」の実現を目指す若者の移住が増えたことが大きな要因、「田園回帰」が始まっていると、学者は分析する。藻谷浩介氏の「里山資本主義」で述べている生きるために必要な「水と食料と燃料」、それにそれを生かす知恵や技を備えた（生きる力）人がいる田舎は大きな魅力であろう。「源快集楽・小川内」（広島市の源のまちで、快い暮らしができ、人が集まって楽しいまち）の呼びかけに呼応して、昨年も都市部から、農業体験や田舎の暮

しや文化を体験、学ぶツーリズムに数百人が参加、地元の住民と交流した。都市住民から、地元の住民が当たり前と思っている、空気がうまいとか、野菜が美味しい、多くの生き物がある・・・に田舎の魅力とありがたさを気付かせてくれた。又、都市住民は、食と農と環境、農村の文化を学び、自然豊かな田舎（小河内）に感動、魅力を感じた、と言っています。この交流を通じて田舎（小河内）ファンが醸成されているのではないかと、思います。しかし、いざここで生活するとなると、住む家のこと、働くところ、通学や買い物のこと等、現実的生活課題に直面する。こうした課題に納得できる回答を用意しないと前には進まない。希望者に空き家情報の提供、仲介や農産物販売、炭焼き事業（弥太郎君）で働く場や収入源の確保等、取り組んでいるものの説明できる成果はできていない。道半ばであろうか。それを運営するスタッフや住民の高齢化、と言う問題も加わる。過疎地はこうした課題を抱え、悩んでいる。共通の課題だ。今、日本の地方や中山間地域が抱えている、この社会的な問題に取り組み、日本を変えるぞ！ 過疎地を再生するぞ！ と気概のある元気な若ものが現れないか、初夢を見る。

吟醸酒「白鳥ろまん」販売中

限定品の為、先着順に



5月に植えた苗が成長、米となり、お酒に変わっていく（写真右は白鳥商店会員さんの田植え）

昨年、小河内の水田で収穫した米（小河内米）で市内中区白鳥の原本店が醸造した吟醸酒（写真左）を1本750[㍓]L、1500円（税込）で販売中です。この酒米づくりには同酒造の・社長さん自ら田植えや稲刈りに参加、汗を流されました。小河内のきれいな水と太陽の光をいっぱい浴び、地元が大事に育てた米を・社長さんが特別な思いで醸造、12日のとんどで試飲した地元民は、まるやかで美味しい、と好評でした。

数量に限りがありますので、先着順で販売します。ご希望の方は小河内集会所にありますので、お立ち寄り下さい。尚、事務所は不在にしている場合がありますので、予め、お知らせいただければ助かります。売れ切りの場合は、ご容赦下さい。

農村体験ツーリズム「炭焼き体験」参加者募集

	炭焼き体験とバーベキューで交流会（釜から木炭の取出し体験とバーベキューで交流会）	滝山登山と交流会（小河内の最高峰（692m）登山と麓の民家で縁側カフェ等の交流会）
日時	2月15日（土） 10:15～15:00	3月8日（土） 10:15～15:00（予定）
場所（集合場所）	小河内集会所（桜山炭焼き窯）	黒瀬（松田会長宅）
参加費	1組2000円（お土産付） 別途、1人に付1000円（食事代）	550円
募集人数	20人（定員を超えた場合は抽選）	40人（定員を超えた場合は抽選）
申込み締切り	1月29日（水）	2月21日（金）（予定）
申し込方法	参加者全員の氏名、年齢、住所 電話番号をはがき又はFAXで表記へ	同左
持参品	防寒対策、長靴、タオル、マスク等	飲み物、お弁当、登山出来る服装

滝山登山の詳細はホームページや「市民と市政2月15日」に掲載予定です。

不明の場合は表記又は安佐北農林課（電話082-819-3932）へお問い合わせ下さい。

小河内のとんど

1月12日、寒風が吹きぬける中、自治会や子供会の親子約60人が出て、孟宗竹約80本を切り出し、とんどを組み立て、年男・女が点火。爆竹を鳴らしながら勢いよく燃え上がる炎を見ながら、ぜんざいや豚汁、猪肉を頂き、正月の風物詩を楽しんだ。少子高齢化が進むが、今後もこうした伝統文化を守っていききたいね、と話し合った。





点火前に全員で記念撮影（後方は楓原集落）



竹で正月の飾り餅やお供えの餅を焼く
これを食べると無病息災と言う



孟宗竹に清酒を入れ、とんどの火で熱燗に
竹のエキスが出て美味しい

編集後記

関東の友人からの年賀状に、GNP（義理、人情、プレゼント）からGDP（元気で独立して、ポジティブに）へ、とありました。GNPも大事ですが、馬齢？を重ねると「元気で独立してポジティブ」に生きたいものです。

又、別の友人からは、早くも今年の漢字を居場所の居を入れたい、言うのもありました。それぞれが絆（平成23年）を紡ぎ、人生の金（24年）メダリストとして、自助・共助の輪（25年）を抜け、自分なりの居場所を。100人いれば、100個の金メダルがある。全ての人にその人なりの居場所（場と役割）がある、と。自分が住んでいるところ、自分がやっていること（仕事や活動など）、その居場所は大事な場。郷土や自分の仕事に誇りと自信を持って、今年も元気に過ごしましょう。(S)